

宇和島市教育大綱

(令和6年度～10年度)

～宇和島市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱～



宇和島

ココロまじわうトコロ

令和6年4月1日

宇和島市

はじめに

私は、宇和島市の子どもたちをはじめ、ここに暮らすすべてのの方々に対して、

- ・「自分自身と生まれ育った地域のよさや可能性を認識して、自分と地域に“自信、誇り、愛着”を持てるようになってほしい。」
- ・「あらゆる他者を認め、尊重し、また対話や協働を通じた課題の解決や新しい価値の創造など、あらゆる可能性を探求してほしい。」
- ・「どのような変化が起こったとしても、ピンチをチャンスに変えるような発想により、自分の人生を切り拓いていけるようになってほしい。」

これらを通じて、「一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な社会の創り手となってほしい。」と考えております。

全国的に見て、少子高齢化に伴う問題が顕著となる「2040年問題」への取り組みが喫緊の課題とされているとおり、本市においても少子化や若者人口の流出による人口減少は進んでおり、その結果として地域コミュニティの希薄化や地域の衰退が危惧されています。

一方、令和2年から続いたコロナ禍では、新たな生活様式の1つの形としてオンラインによるコミュニケーションやリモートワークなどの活用が加速化され、加えて令和4年末頃からのChatGPTに代表される生成AIの社会実装に向けた動向など、超スマート社会（Society5.0）の到来が身近に感じられる状況となってきました。この他、人生100年時代など、いずれも人類が経験したことのない社会変化が進む中で、これまでの価値観・生き方・働き方の多様化などのパラダイムシフトによって、新しい「可能性」や「機会」も訪れようとしています。

このような中、本市が目指している教育は、学校・家庭・地域のあらゆる世代と様々な分野の人々が協働して、自然、歴史・文化、伝統・風土、産業、レジャーなど宇和島ならではの地域の魅力と強みを維持・継承しつつ、未来の担い手の育成に関わることを通じて、大人たち自身も時代の変化に呼応して成長し、変容していくことのできる「共育」をALL宇和島で進めていくことです。

また、このような「人づくり」を通じた「つながりづくり」が、災害をはじめとしたあらゆる地域の困りごとに対して、「自助」の意識を持って、「共助」の力を発揮できる、それを行政が「公助」として支援する、そのような地域共生社会として、誰一人取り残さない、持続可能で魅力的な「地域づくり」としても機能することを期待しています。

今後も、市長部局と教育委員会との連携をより緊密にし、更には、NPOをはじめとする各種団体、民間事業者及び市民の皆様のご理解とご協力、ご意見をいただきながら、本市の教育行政の推進に努めていきます。

令和6年4月1日
宇和島市長 岡原 文彰

策定の趣旨

私たちは現在、様々な観点で大きな変化に直面しています。

グローバル化や気候変動などの地球環境問題、多発する自然災害、少子高齢化・人口減少、都市と地方の格差などの社会問題、超スマート社会（Society5.0）や人生100年時代の到来など、いずれも人類がかつて経験をしたことのない変化であり、こうした変化は地域社会にも大きな影響（ピンチとチャンス）をもたらすことが予測されます。

特に、令和5年に入って ChatGPT をはじめとした生成 AI の急速な社会実装にともなって、人の役割は「問われて解く」ことから「自ら問う」ことに変わりつつあります。無関心から「問い」が生まれることはありません。現実の社会（ヒト・モノ・コト）と直接関わることから生まれる好奇心や主体性（当事者意識）の重要性が増すことになります。また、AI が本格的に実装された社会においては、デジタルで扱えるものの価値は相対的に下がり、デジタルで扱うことが比較的難しい「身体性を伴う五感（知覚）と喜怒哀楽の感情が統合された体験」の豊かさの意味と価値が高まると考えられます。

そうした視座に立てば、実は、豊かな自然の恵みと地域社会や人との密接なつながり（ソーシャル・キャピタル（社会関係資本））がある地方においては、これからの私たちの教育への取り組み方次第でチャンスを創出できる可能性があります。

また、地域との関わりや関心が薄い若者が地域を出ていくことは「流出」である一方、地域をよくしていこうとする当事者意識に基づく地域に対する自負心を持った若者が地域から飛び立っていくことは「輩出」と捉えることができます。

若者に限らずこうした志ある人のネットワークが広がることは、共創型の関係人口の増加にもつながります。そのことによって、今後減少することが避けられない「定住人口」に「関係人口」も加えた、新しい時代のコミュニティ（ココロまじわうトコロ・宇和島）を共創することにもつながります。

将来の予測が困難といわれる現代にあって、新しい時代の教育と地方創生の実現に向けて、一人一人の人生を豊かなものにするとともに、自分とは異なる世代や立場、異なる意見（経験、知識、技術、価値観）を持つ他者と、対話を通じて合意を形成し、協働して取り組んでいくためには、共有できる上位の理念と方針が必要となります。

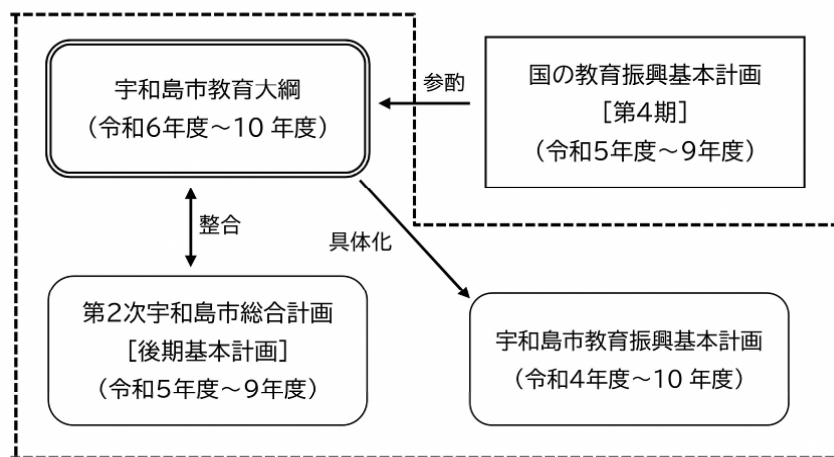
こうしたことから、令和2年4月、「一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な地域社会の共創を目指す、人づくり・つながりづくり・地域づくり」を基本理念（目指す教育の姿）とする宇和島市の教育大綱を策定しています。

令和5年6月に閣議決定された国の第4期教育振興基本計画では、コンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。

これらのことを踏まえて、宇和島市における教育政策の進むべき方向性を示す「羅針盤」となるべき宇和島市教育大綱をあらためて策定しました。

位置づけ

「宇和島市教育大綱」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 に基づき、国の教育振興基本計画を参酌し、「第 2 次宇和島市総合計画」との整合を図りながら、宇和島市の教育、学術及び文化の振興に関する最上位目標（基本理念）や施策の方針を定めるものです。



期間

令和 6 年度から令和 10 年度までの 5 年間とします。

ただし、今後の社会情勢の変化等に応じて、宇和島市総合計画や宇和島市総合戦略等、市の取組の全体との調和を図りながら、適宜見直しを行います。

「すべての人がよく学び新たな時代を語り合う 学びあううわじま」

基本理念（目指す教育の姿）

■目指す教育の姿

『自律・共生・創造』

- 一人一人のウェルビーイングと包摂的で持続可能な地域社会の共創を目指す、人づくり・つながりづくり・地域づくり

■目指す人の姿

『持続可能な社会の創り手』

＜自律した個人として＞

- シビックプライドの涵養

＜他者との関係として＞

- あらゆる他者の尊重
- 多様な人々との協働

＜社会における役割として＞

- 地域の魅力の維持
- 地域の課題の解決
- 新しい価値の創造

■目指す取り組みの姿

『ALL宇和島の共育』

- 学校・家庭・地域のあらゆる世代と様々な分野の人々が一体となった、ALL宇和島の共育

※ウェルビーイング・・・個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

※シビックプライド・・・都市に対する市民の誇りを指す言葉。郷土愛と似ているが、単に地域に対する愛着を示すだけではなく、自分自身が関わって地域をよくしていこうとする、ある種の当事者意識に基づくまちに対する自負心のこと。

振興方針

基本理念を実現するために、次の7つの方針に基づき、宇和島市の教育振興に取り組みます。

1. 未来を創り出す子どもたちの成長を支える地域社会総掛かりでの教育の推進
2. 変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」の育成
3. 障がいのある子どもたちがいきいきと学ぶための特別支援教育の充実
4. 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築
5. 個人の自立や地域社会の共助に向けた取組の推進
6. 多様な人材を育成する文化芸術・スポーツの振興
7. 互いの人権を尊重し行動するための人権・同和教育の推進

1. 未来を創り出す子どもたちの成長を支える地域社会総掛かりでの教育の推進

- 「地域とともにある学校づくり」を目指すコミュニティ・スクールと、「学校を核とした地域づくり」を目指す地域学校協働活動を推進します。
- 社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動（E S D：持続可能な開発のための教育）に取り組みます。
- 豪雨災害での経験を生かし、災害に強いつながりづくりや共助に向けた「防災教育、安全教育」の充実を図ります。
- 子どもたちが安全で、安心して健やかに成長できる居場所を確保するとともに、体験活動や地域住民との交流等の機会を通じて、シビックプライドが醸成されるような活動を推進します。

2. 変化の激しい社会を生きるために必要な「生きる力」の育成

- 社会に開かれた教育課程の実現、その他学習指導要領の着実な実施を図ります。
- 教育デジタルトランスフォーメーションを推進し、オフライン、オンラインの教育を使いこなす（ハイブリット化）ことで、個別最適な学びと協働的学びの実現を目指します。
- ALT を活用した外国語教育の強化を推進し、コミュニケーションを通じて、問題を発見し解決する能力、困難を乗り越える強い人間性を育むとともに、確かな学力の定着・向上を目指した実効性のある取組を進め、基礎学力の向上を図り、特に読解力、考える力を育てる教育を推進していきます。
- 幼児期から各教育段階に応じた体力の向上、健康の確保、食育の推進に取り組みます。
- 幼稚園、保育所（園）、認定こども園との連携に努め、幼児期における教育の質の向上を図ります。
- 学校指導体制の整備やＩＣＴ環境の充実・活用の推進、安全安心で質の高い教育環境の整備など教育の各分野での基盤整備を推進します。
- 関係機関や地域とともに、いじめ・不登校・虐待などの未然防止と早期発見、迅速適切な対応を図ります。

3. 障がいのある子どもたちがいきいきと学ぶための特別支援教育の充実

- はぐくみサポートステーションを拠点として、支援が必要な子どもやその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目のない支援が受けられる体制の充実に努めます。
- 関係機関や地域とともに、発達障がいの子どもの理解と支援を進めます。

4. 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築

- 誰もが社会の担い手となるよう、家庭や学校においてさまざまな課題をかかえる子どもや保護者、市民に対し、多様なニーズを早期に発見し、年齢階層で途切れることのない支援を、各機関・団体・地域と連携して推進します。

5. 個人の自立や地域社会の共助に向けた取組の推進

- いつでも、どこでも、だれでも主体的に学ぶことができ、豊かな心を育てる生涯学習社会の確立を目指すとともに、他者と連携・協働しながら、地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けるための社会教育を推進します。
- リカレント教育やリスキリングなどを通じたキャリア形成、高齢者等の生涯学習、生涯を通じたスポーツや文化芸術活動の推進等、人生 100 年時代を見据えた生涯学習を推進します。
- 情報通信技術を利用できる人とできない人との間に生まれる情報格差（デジタル・ディバイド）解消のため、誰もが ICT ツールを利用して情報処理やコミュニケーションを行うことができる能力（ICTリテラシー）を身に付けるための学習機会の充実を図ります。
- 地域の課題解決のため、多様な主体の参画を促し、人づくりや地域づくりを支援する様々な取組を展開します。

※リカレント教育・・・・・・・・職業人を中心とした社会人に対して、学校教育の終了後、一旦社会に出てから行われる教育のこと。職場から離れて行われるフルタイムの再教育に加え、職業に就きながら行われるパートタイムの教育も含む。

※リスキリング・・・・・・・・新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適應するために、必要なスキルを獲得する（させる）こと。

6. 多様な人材を育成する文化芸術・スポーツの振興

- スポーツ・文化・芸術の各分野において、子どもたちの優れた才能や個性を伸ばしていくため、関係団体の協力のもと、様々な体験の場・機会の提供を図ります。
- 各地域で独自に受け継がれてきた文化財や芸能について、様々な工夫で興味・関心をもたせ、後継者育成や郷土愛醸成に取り組めます。
- トップアスリートの育成をはじめ、幅広い年代の市民の健康維持のため、ニーズにあわせたスポーツ環境を提供するとともに、関連団体のサポートと連携に努めます。

7. 互いの人権を尊重し行動するための人権・同和教育の推進

- すべての人がお互いの人権を尊重し、共に生き、共に学び、共に育つよう多様性を認め合う社会的包摂を推進するとともに、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題を解決するため、学校・家庭・地域・企業等における人権教育・啓発を推進します。
- インターネットやスマートフォンで加害者とならないよう正しい知識の提供や啓発など、情報モラル教育の更なる充実や相談体制の確立を目指し、いじめ・人権侵害の防止に努めます。
- 新型コロナウイルスの感染拡大で顕在化した差別事象を教訓として、他人への誹謗中傷等、差別や人権侵害を許さない社会づくりに取り組めます。